



「まるるんパパ にこにこあおむし人形劇団」



1月25日(土)、中原区の新丸子子ども文化センターにて『まるるんパパ』を実施しました。父親の育児参加を応援し地域親子のつながりを広げる機会を設けるため、今回は「にこにこあおむし人形劇団」の方々を招き、人形劇の公演を行いました。



人形劇が始まると、「にこにこあおむしくん」が登場し、素敵な歌声が響きました。子どもたちは、どんどん物語の世界に惹き込まれていきます。そこにかわいい動物たちも登場し、楽しいお話が繰り広げられました。会場は、子どもたちの可愛い笑い声が響き、笑顔が溢れる温かい雰囲気に包まれました。



参加された大人も童心に帰り終始笑顔が見られ、親子で楽しいひと時を過ごすことができました。そして最後は出口で、劇団の方々と動物たちとハイタッチをしてお別れしました。

当財団では今後も、様々な活動をされている地域の方々との交

動物たちとふれあえて楽しかったな～



※こぶんたは、当財団が管理運営するこども文化センター52施設のキャラクターです。

流を通して、子どもたちの健やかなこころの成長を見守っていきます。

2020年
春号 (通巻No.289)

ナンバーゼロ



目次

- P2 かわさき市民活動センターをご支援ください
- P3 市民活動のキーワード
- P4 こぶんたが行く! ごえん楽市予告

予告



出展者募集予告

見て、聞いて、楽しんで、かわさきの市民活動を知ろう!

2020年度は、かわさき市民活動センター・中原市民館で
2020年9月26日(土曜日)に開催します。

出展者は、5月初旬より募集を開始します。当センターホームページや出展者募集チラシにご注目ください。

かわさきボランティア・市民活動フェア



出展できる方 川崎市内を中心に活動している市民活動団体、社会貢献活動を行っている団体(企業、学校を含む)

ご案内 MAP



NPO × 大学 × 中間支援組織 専修大学ネットワーク情報学部との連携による市民活動団体広報支援

2月6日(木)、かわさき市民活動センターにて「かわさきNPO映像交流会」が開催され、会場には約80名が集まりました。当センターの大学連携事業として、川崎市内の市民活動団体10団体と専修大学ネットワーク情報学部の学生が連携し、団体の広報物(PR映像、パンフレット、WEBサイト)が完成しました。かわさきNPO映像交流会は、そのお披露目の場です。広報物について、学生から発表を行い、団体からコメントやねぎらいの言葉をもらうなど、交流の機会にもなっています。



今年度は当センターも団体のひとつとして参加し、大学連携事業を紹介する広報物が完成しました。



ナンバーゼロ 2020年春号(通巻No.289)

【編集・発行】
公益財団法人かわさき市民活動センター 市民活動推進課

〒211-0004 川崎市中原区新丸子東3-1100-12
電話:044-430-5566 FAX:044-430-5577
メール:suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp
WEB:http://www2.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/volunt/



Facebookでも情報を発信しています。
<https://www.facebook.com/kcac.suisin/>



ポータルサイト「応援ナビかわさき」
<http://kawasaki.genki365.net/>

あなたの千円は川崎の市民活動を変える力があります。



賛助会員加入のお願い

皆さんからいただいた会費は、おもに当センター市民活動推進事業のうち情報発信事業に役立てられます。会費の額と活用例(目安)は、以下のとおりです。

- 個人会員1口(1,000円)で** ▶ 「ポータルサイト応援ナビかわさき」で、団体用IDを1団体に提供することができ、その団体の広報力UPに貢献できます。
- 個人会員2口(2,000円)で** ▶ 「情報紙ナンバーゼロ」を、送付希望団体用として約150部印刷でき、それを通じて組織運営の改善に役立てられます。
- 団体会員1口(5,000円)で** ▶ 「ボラ・ナビ夏休み版」を約680冊印刷でき、それを通じておよそ16人の生徒・学生がボランティア活動に参加するきっかけになります。
- 団体会員2口(10,000円)で** ▶ 「事業成果レポート」を1回印刷することができ、それを通じて、当センターへの共感が広がり、安定的な市民活動団体への支援につながります。

■賛助会費について

- 個人:一口1,000円(一口以上)、●団体・法人:一口5,000円(一口以上)
- 郵便振替口座番号:00210-6-68974
- 口座名:(公財)かわさき市民活動センター

□税制上の優遇措置について

公益財団法人である当センターへの賛助会費を含む寄附は、所得税の寄附金控除の対象となります。個人が確定申告などを行う際、一年間の特定寄附金の合計額から2,000円を引いた額を、総所得金額から控除できます。ただし、年間の総所得金額の40%相当額が上限となります。
※詳しくは、お近くの税務署にご照会ください。

□個人住民税の控除について

公益財団法人である当センターへの賛助会費を含む寄附は、神奈川県および川崎市の条例により指定されており、個人住民税の寄附金税額控除の対象となります。(ただし、神奈川県または川崎市に住民登録をされている方に限ります)

応援したい事業・団体への寄付を応援する「寄付金税制」

寄付の対象により、税金が控除されるケースがあります。「寄付金控除」という仕組みで、確定申告することで所得金額から控除されます(2,000円以上の寄付をした場合で、確定申告の際にその証明書が必要です)。控除には「所得控除」と「税額控除」があり、寄付先により使える控除が異なります。

寄付金控除ができる主な寄付先

・国、地方公共団体	・政治活動に関する政党や政治資金団体など
・公益財団法人(かわさき市民活動センター・日本ユニセフ協会など)	・特定公益増進法人(日本赤十字社など)
・公益社団法人(日本ガールスカウト連盟・セーブザチルドレンジャパンなど)	・認定NPO法人、特例認定NPO法人

応援したい公益法人・認定NPO法人・特例認定NPO法人を「寄付」という形で支援しやすくするため、税金の「控除」というかたちで、「税の優遇」を寄付者は受けることができます。

直接的に税金の控除を受けるのは「寄付者」ですが、寄付者は事前にお金を応援したい事業・団体に寄付しています。つまり、自分の税金の中から、応援したい事業・団体のためにお金を捻出できたこととなります。その経路は間接的ですが「自分が応援したい事業・団体のために税金を使う」ことができる具体的な手段です。

(参考:認定をとうろ!NET <https://www.nintei-torou.net/>)

聞いて見よう!

かわさき市民公益活動助成金 公開事業報告会&公開プレゼンテーション

かわさき市民公益活動助成金とは?

この助成金は、市内で活動しているボランティア団体やNPO法人などの団体が行う「事業」を、資金面から支援し、団体がそのミッションを達成できるようお手伝いするものです。

2019年の助成金交付団体による事業報告会、また2020年度の第2次審査である公開プレゼンテーションを開催します。当センター内で、助成コース別に2~3か所に分かれて、同時進行で発表が行われます。今後、助成金を申請する団体にとって、ためになる情報、参考になることがたくさんあります。出入り自由です。お気軽にご来場ください。

申込不要

どなたでも聞くことができます。

※今秋に2021年度分の募集説明会があります。また、年間を通して助成金についてのご相談を受け付けています。併せてご活用ください。

2019年度 公開事業報告会

4月12日(日)13:00~16:30

2020年度 公開プレゼンテーション

5月16日(土)・5月17日(日)

会場 かわさき市民活動センター
会議室&フリースペース



予告 ボラ・ナビ2020 夏休み特別企画



小学生から中学生・高校生向けの特別企画を今年も計画しています。ボランティア活動を初めて行う児童・生徒の皆さんが受入団体の協力を得て、臆せずボランティアを行えるように、またスムーズに体験・経験が出来るような企画です。
ボラ・ナビ2020夏休み版にご期待ください。

お知らせ



当センターに施設利用登録をしている団体に本紙「ナンバーゼロ」を次号より定期的に無料で送付します。

送付を希望される団体は、当センター宛てメールでお申込みください。

メール:
suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp
既に送付希望頂いている方は不要です。

シリーズ 市民活動のキーワード Vol.7 「プロボノ」

最近、耳にすることが多くなったプロボノという言葉。その起源は古く、1900年前半の米国まで遡れます。日本では、2010年が「プロボノ元年」と言われています。

川崎市では、市内の市民活動団体を支援する手法の一つとして、2015年度から「プロボノサマーチャレンジ KAWASAKI」を開始。その成果を活かし、2018年度から「川崎プロボノ部」が立ち上がり、プロボノの普及に努めています。

プロボノは、ボランティア活動の一形態で、プロボノを行うボランティアのことを「プロボノワーカー」と呼んでいます。プロボノワーカーは、仕事で培った知識やスキルを、公益的なことに活かすことができます。プロボノを通じ、新たな気付きを得たり、自身のスキルアップにも繋げることができます。

一方、プロボノを受け入れる側である市民活動団体は、一般的にヒト・モノ・カネが不足しています。専門知識

や専門スキルを持ったプロボノを受け入れることにより、事業を充実するための力とすることができます。

ただ、市民活動団体にとっては、いきなり外部から来た人を信頼できるかという点で簡単ではありません。そのために、プロボノをしたい人、受け入れたい団体の間に立つ、サポート団体が存在しています。「川崎プロボノ部」も、川崎市域のサポート団体です。サポート団体では、支援依頼をプロジェクト化し、そこにプロボノ参加希望者を募ってチームを編成し、様々な課題解決へアプローチをしています。

プロボノを通して幅広い社会参加の機会を得られるという点から、プロボノ社会人が増えてきています。

※プロボノ…「公共善のために」を意味するラテン語(pro bono publico)に由来する言葉